

基本目的 9 行政機能が高くなる

行動目標9 - 1 社会ニーズに対応した行政運営を行う

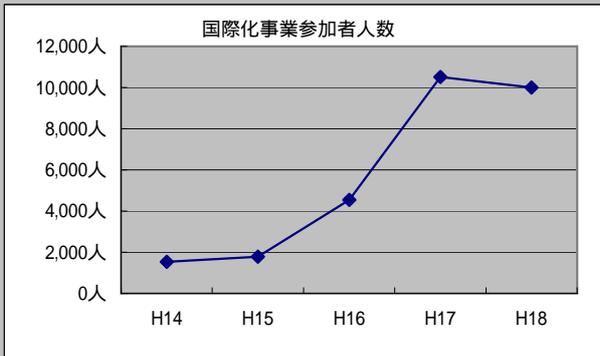
(所管課名 市民文化部国際課)

任務 市民がお互いに異文化を認め合い、国際理解ができるようになる。

任務の成果・活動指標の推移

国際化事業参加者人数

H14実績	1,530人
H15実績	1,776人
H16実績	4,548人
H17実績	10,518人
H18目標	10,000人



指標の説明

市民の異文化理解や国際理解の広がりを表す指標として、市民に分かりやすいことを考慮して、多文化共生及び国際理解のために開催した事業に参加した人数により成果を表す。

任務に対する評価

これまでの取組と成果、手段の妥当性

平成16～17年度

近年、特に増加傾向にある、日系ブラジル人を中心とした外国人市民との共生を推進するため、平成16年10月国際共生サロンを開設し、生活相談、日本語教室、文化・習慣の紹介を行っている。共生について制度上の問題があるものなどは、平成17年度外国人集住都市会議の座長市として会員17都市の意見をまとめ国に要望書を提出した。また、海外との交流では、平成17年度が天津市との友好都市提携25周年であり、記念事業を実施し、市民と共に友好・国際理解を深める機会となった。ロングビーチ市との交流では、平成16年度にロングビーチ市代表団を受け入れ多くの市民ボランティア等の協力で各種行事を実施した。さらに、ロングビーチ市との間で継続されている、トリオ(教師・学生)の交互派遣・受け入れを行った。

平成18年度

多文化共生を推進するため、外国人の集住地域笹川の地域団体、保幼小中所属長により組織する笹川地区共生推進会議で地域共生イベントを開催する。また、外国人集住都市会議座長市2年目であり、秋に18都市の首長が一堂に会する会議を東京で開催するなど、多文化共生の必要性を広く訴える。本年は日豪交流年でありオーストラリアとの交流事業を実施し、国際理解の広がりを図る。

これからの課題、施策等展開の方向性

市民レベルの多文化共生を推進するため、担い手となるボランティアやNPOの育成に努める。また、国際交流をさらに市民主体のものにしていくため、市民による海外交流団体等を支援していく。